

## 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島

静岡県三島市

### 【活動概要・効果】

#### ☆地域環境改善活動の推進

○三島市との協働事業の中で「街中がせせらぎ事業」に参画したことで、市民・企業・行政の協働の街づくりの大きな牽引力となる。水辺環境再生事業の実施や小中学校及び市民を対象とする環境教育活動を多数開催している。

☆三島市民に「協働による街づくり」を定着させ、自然環境及び景観に対する意識を向上させた。汚れていた松毛川などの自然環境を改善し、水生昆虫などが多数復活している。地域の環境整備事業に参画し、三島では市街地で25種類ものトンボを観測できるなど、自然環境豊かなまちづくりが住民の手によって定着している。



自然観察

#### 《人員確保での工夫・苦労》

当法人では、市民の多様な志向にあつた人材養成講座を開講しており、エコ・リバー・富士山湧水インストラクターを3年間で約200人養成し、環境教育の指導者として学校に派遣している。また、せせらぎシニア元気工房の開設により、環境コミュニティ・ビジネスに取り組む匠の集団を組織化して、里山再生やリサイクル教育の推進役の役割を担ってもらっている。やはり、やや高度で専門的な知識の連続的な習得機会の提供と活躍の場の創造が求められる。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

当法人では、スタッフ会議で活動の概要と方向性を議論し、戦略的で長期的な事業計画を策定している。また、それらをどのような手段・資金確保によって実現するのかのメニューを考え、多様な助成団体への申請、行政への政策提言による地域住民や企業の支援を前提としたパートナーシップ型補助金の確保、NPOの特性を評価しての委託事業の受託、環境コミュニティ・ビジネスへの取り組みによる自主財源の創設など、あの手この手の資金確保に毎年努力している。

#### 【現場の声】

グラウンドワーク三島は、環境悪化が進んだ「水の都・三島」の水辺自然環境の再生を目的に、多様な環境改善活動に取り組み、現在では、水辺の再生や学校ビオトープの建設、住民参加の公園づくり、歴史的井戸の保全活動など40箇所もの実践地が市内に点在している。工夫点は、とかくバラバラに行動してきた、市民・NPO・行政・企業の有機的な関係づくりであり、その調整役、仲介役としてのグラウンドワーク三島の組織基盤の強化と総合的・戦略的なマネジメントの育成である。また、「右手にスコップ・左手に缶ビール」を合言葉にした、「現場主義・実績重視」の創造的で楽しい活動形態が、魅力的・発展的な市民活動の継続の秘訣であると考えている。

～特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島  
理事長 緒明 實さん



作業風景